

殺さない殺し屋

みつむら
けいすけ

殺さない殺し屋

舞台は暗いまま、台詞だけが聞こえる。

みつむら　けいすけ

宇田川 誠司 「うだがわ　せいじ」（男） 医師
千葉 好子 「ちば　こうこ」（女） 看護師
小山内 匠 「おさない　たくみ」（男） 患者

【登場人物】

宇田川 じゃあ一つ例え話ね。水槽にカマスを入れて、餌になる小魚も一緒に入れます。ただし、真ん中を透明なガラスで仕切って、仕切りの向こうに小魚を泳がせておく。カマスは、小魚を食べようと何度も近づくけど、その度にガラスにぶつかって、痛い目にあう。やがて、カマスは諦めて動かなくなります。そこで、仕切りを取り払って、小魚を自由に泳がせる。しかし、小魚が自分の近くに来ても、何度も痛い目にあつたカマスは食べようとしない。これを学習性無力感と言います。

場所はとある病院の心療内科。舞台が明るくなると、医師（宇田川誠司）が椅子に腰掛け、傍に看護師（千葉好子）が立っている。舞台中央にはベッドテーブルとベッドがあり、宇田川の傍には患者用の椅子がある。千葉の傍には処置ワゴン（包帯交換車ともいう）があり、その上にはヘルメットが二つ置いてある。

千葉 え、何？
宇田川 学習性無力感。
千葉 はあ。
宇田川 聞いたことある？
千葉 無力感？

宇田川 カマスの話。
千葉 ううん。
宇田川 ホント?
千葉 え?
宇田川 千葉さん、仕事がデキる女って感じしたから、てつきり…。
千葉 そんなことないよ。
宇田川 ま、僕も友人から聞いたんだけどね。ほら、近藤。
千葉 ふーん。
宇田川 覚えてない? 近藤。
千葉 こんどう?
宇田川 近藤司。同じクラスだった。サッカー部の。
千葉 :さあ。
宇田川 そう。とにかくね、ビジネス書によく書いてある話だつて。
千葉 組織の活性化の例え話でね。
宇田川 今の話の、どこが活性化されたの?
千葉 まだ続きがあるんだつて。
宇田川 うん。
千葉 :聞きたい?
宇田川 聞かせて。
千葉 ところで、フレンチ好き?
宇田川 フレンチ?
千葉 うん。イタリアンでも良いけど。
宇田川 カマスと関係あるの?
宇田川 いや、どうせなら何か食べながらと思つてね。
千葉 :何、いつもそうやって女の子をナンパしてるわけ?
宇田川 違うつて。久しぶりに会つたし、積もる話もあるかなと…。
千葉 どうだか。
宇田川 あ、中華とかは? こないだ良い店見つけたんだけどね…。
千葉 あのねえ…。
宇田川 すみません。
患者 (小山内匠) がやつてくる。
宇田川 どうされました?
小山内 すみません勝手に。受付の方がいなくて。
宇田川 ああ、失礼しました。
小山内 ずっと呼んでたんですけど。
宇田川 本来は休診日なもんで。
小山内 そうなんですか。
宇田川 小山内さんですか?
小山内 はい。
宇田川 お待ちしておりました。

千葉 どうぞ、こちらへ。

小山内 お願いします。（椅子に腰掛ける）

宇田川 こちらこそ。いやあ、嬉しいなあ。

小山内 え？

宇田川 大ファンなんです。

小山内 ああ。

宇田川 先生の作品、大好きなんですよ。

小山内 先生はやめてください。

宇田川 もうね、こんな小っさい時から読んでます（指で表現する）。

小山内 ありがとうございます。

宇田川 しかし、感激だなあ。

小山内 恐縮です。

宇田川 そうだ。新作、面白かつたです。

小山内 どうも。

宇田川 社会における必要悪について、考えさせられました。まさ

か、ああいう切り口でくるとは。そして、ラストのどんでん返し。

そして、どんでん返し。さらにどんでん返し。そしてまたどんでん返し。ハッピーエンド…かと思いつきや、またどんでん返し…。

千葉 先生。

宇田川 あ、失礼しました。つい興奮してしまって。

小山内 いえ。

宇田川 それで…本当に、よろしいんですか？

小山内 ええ。

宇田川 勿体無い。

小山内 え？

宇田川 勿体無いです。文学界の大きな損失ですよ。

小山内 そんな大袈裟な。

宇田川 いやいや。

小山内 私なんて、所詮凡才です。

宇田川 あんなに素晴らしい作品をお書きになるのに？

小山内 まぐれですよ。もう書けません。

宇田川 まぐれでみんなもの書けるわけないでしよう。

小山内 まぐれなんですよ。もう、手が震えて書けないんです。

宇田川 そんな…。

小山内 疲れました。

千葉 疲れた？

小山内 良い作品を書けば書くほど、周囲の期待は大きくなる。

宇田川 ええ。

小山内 その期待に応えれば、読者の期待はさらに大きくなる。

宇田川 確かに。

小山内 もう書けないんです。もう、疲れたんです。

宇田川 そうですか…。

小山内 あの。

宇田川 はい。

小山内 本当に、苦しまずに逝けるんですか？

宇田川 はい。後処理もお任せ下さい。

小山内 良かつた。死ぬ時まで、人に迷惑かけたくないですからね。

宇田川 我々はプロですから。お任せ下さい。

小山内 心強いです。

宇田川 先生の為です。必ず成功させます。

小山内 ありがとうございます。

宇田川 それでは、同意書にサインを。印鑑はお持ちですか？

小山内 はい。しかし、同意書というのは…。

宇田川 形式的なものです。気負わず書いてさえくだされば。

小山内 そうですか。

千葉 こちらにお願いします。

宇田川 あれを。

千葉 はい。

小山内、同意書にサインをする。

その間、千葉が処置ワゴンを所定の位置に動かす。

小山内 できました。

千葉 こちらにどうぞ。

小山内 はい。(ベッドに腰掛ける) これは?

宇田川 脳にちょっととした細工を。

小山内 え、痛いんですか?

宇田川 逆です。脳への伝達処理を抑制して痛覚を鈍らせるんです。

小山内 はあ。

宇田川 つまり、死ぬ時の痛みを無くす装置です。

小山内 ああ。

千葉 失礼します。

千葉、小山内の頭にヘルメットを被せる。

宇田川もヘルメットを被る。

ヘルメットから伸びるコードは処置ワゴンの上の四角い箱に繋がっている。

小山内 大丈夫なんですか? これ。

宇田川 勿論。我々はプロですから。

小山内 そうですか。

宇田川 電源。

千葉 え?

宇田川 電源入れて。

千葉 あ、えっと。

宇田川 赤いやつ。

千葉 ああ。

千葉、処置ワゴンの上の四角い箱のボタンを押す。

小山内 :

宇田川 すみません。新人なもので。

小山内 本当に大丈夫なんですか？

宇田川 勿論。我々はプロですから。

小山内 はあ。

宇田川 さて。どれにしますか？

小山内 え？

宇田川 自殺方法です。どれに？

宇田川 じゃあ七輪はナシですね。

小山内 …睡眠薬で。

宇田川 では、どうぞ。

小山内 え？

宇田川 お好きなタイミングで。

小山内 …はい。

宇田川、ベッドテーブルを示すが、テーブルの上には何もない。

小山内 あ…。

宇田川 何か？

小山内 いえ。えっと、これは？（瓶を持ち上げる動作）

宇田川 睡眠薬です。大量に服用すれば、ポツクリと逝けます。

小山内 この繩は？

宇田川 決まってるじゃないですか。首吊り用です。

小山内 首吊りは失敗するって聞いたことがあります。

宇田川 何事も絶対、ということはありませんからね。

小山内 ナイフもあるんですか。

宇田川 大丈夫です。痛くないですから。

小山内 あ、そうか。これは？

宇田川 七輪です。じわじわ逝けます。

小山内 さつさと終わらせたいので。

小山内 いくつ飲めば？

宇田川 一気に全部です。

小山内 千葉 分かりました。

小山内 千葉 本当によろしいんですか？

小山内 千葉 はい。

宇田川 小山内 それで終わりですよ。

小山内 宇田川 もう決めたんです。

宇田川 小山内 :そうですか。

宇田川 小山内 後始末、よろしくお願ひします。

宇田川 小山内 はい。

やや間があつて、小山内、意を決して一気に口元に瓶を傾け、その勢いのままコップの水も飲み干す動作。

瞬暗。

舞台が明るくなると、ベッドに横たわる小山内。宇田川と千葉は暗くなる前と同じ位置にいる。

小山内 ここが？

宇田川 はい。なかなか限られてるんですよ。先生は特別ですよ。
小山内 いや、そんなこと言つたつて。

宇田川 何ですか？
小山内 何も変わつてない…。

宇田川 変わつてない？
小山内 はい。…さつきと同じ場所ですよね？

千葉 さつきと言いますと？
小山内 :グルなんですね。

千葉 え？
宇田川 逆にお聞きしますけど。

小山内 何ですか？
宇田川 何をもつて天国じやないと言い張るんですか。
小山内 え？
宇田川 ここが天国でない証拠は？

小山内 いや、だつて…。
宇田川 だつて？

小山内 ここが天国でない証拠は？

宇田川 だつて？
小山内 :何が目的ですか。

宇田川 目的？
小山内 金ですか。

宇田川 まさか。
小山内 ちょっと。からかわないでくださいよ。

宇田川 からかつてなんかいません。正真正銘、ここが天国です。

宇田川 正確には、死後の世界です。

小山内

千葉

宇田川 小山内 千葉

宇田川 小山内 千葉

宇田川 小山内 千葉

宇田川 小山内 千葉

宇田川 小山内 千葉

宇田川 小山内 千葉

宇田川 小山内 千葉

宇田川 小山内 千葉

宇田川 小山内 千葉

宇田川 小山内 千葉

宇田川 小山内 千葉

私。

小山内 : 冗談じゃない。

宇田川 あ、ちょっと。

小山内 : 試しましようか。（手を差し出す）

宇田川 小山内 あ、いや。…結構です。

宇田川 小山内 大丈夫ですか？

宇田川 小山内 だから絶望してるとんでもしよう。

宇田川 小山内 小山内、テーブルの上のナイフを取る動作。自身の首元に刃を当てる、一気に引く動作。

宇田川 小山内 瞬暗。

宇田川 小山内 舞台が明るくなると、ベッドに横たわる小山内。宇田川 と千葉は暗くなる前と同じ位置にいる。

宇田川 小山内 瞬暗。

宇田川 小山内 舞台が明るくなると、ベッドに横たわる小山内。宇田川 と千葉は暗くなる前と同じ位置にいる。

宇田川 小山内 瞬暗。

宇田川 小山内 小山内 おかげりなさい。

宇田川 小山内 千葉 え？

宇田川 小山内 千葉 おかげりなさい。

宇田川 小山内 千葉 え？

宇田川 小山内 千葉 天国です。

宇田川 小山内 千葉 何で…。

宇田川 小山内 千葉 どんなところをイメージしてたんですか？

宇田川 小山内 千葉 何が？

宇田川 小山内 千葉 あなたのイメージしていた天国を聞かせて下さい。

宇田川 小山内 千葉 そりや、頭の上に金のリングを浮かべて、白い服で雲の上

宇田川 小山内 千葉 を歩き回るんですよ。

宇田川 小山内 千葉 コスプレですか？

宇田川 小山内 千葉 格好はどうだつていいんですよ。

宇田川 小山内 千葉 格好の話をしたじやないですか。

小山内 苦しむことなく、ただただ幸せで楽に過ごせる場所です。

宇田川 では、あなたが幸せだと感じるのはどんな時なんですか？

小山内 そりやー！好きなもの食べて、好きなだけ寝て、好きなと

ころに旅行に行けたら幸せですね。

宇田川 どうして？

小山内 どうして？

宇田川 どうして、あなたは好きなものを食べて、好きなだけ寝て、

好きなところに旅行に行けたら幸せになれるんですか？

小山内 それは、それを望んでいるからです。

宇田川 じゃあ、質問を変えます。

小山内 どうぞ。

宇田川 あなたが一番不幸な時はいつですか？

小山内 そりや、編集の顔を見た時です。

宇田川 ベ切に追われるからですか。

小山内 そうです。

宇田川 どうして、今のお仕事を？

小山内 子どもの頃、ものを書くのが得意で。

宇田川 好きでもあつた？

小山内 はい。

宇田川 おかしくないですか？

小山内 何がですか？

宇田川 若い頃のあなたは小説家になる事が望みだつたんですよね。

小山内 ええ、まあ。

宇田川 そして、あなたにとつて幸せとは「望むことをすること」。

小山内 ？はい。

宇田川 あなたの幸せの定義、おかしくありません？

小山内 ？。

宇田川 そこなんですよ。

小山内 そこ？

宇田川 好きなものを食べたがるのは普段、好きなものを食べられ

ないからでしょう。好きなだけ寝たいのは普段好きなだけ寝られないから。

小山内 ？。

宇田川 じゃあ、本当に好きなもの食べて、好きなだけ寝て、好き

なところに旅行し放題だとしたら、退屈になりません？

小山内 どうでしょうね。

宇田川 働くことが好きな人もいる。政治をするのが好きな人も。

小山内 何が言いたいんですか？

宇田川 幸せを社会の中でしか見出せない人もいるんです。

小山内 社会の中で？

宇田川 だから、ここも、あつちも同じ風景になつてているのかもし

れません。

小山内 じゃあ、変わらないんですか。この世もあの世も。

宇田川 そうですね。人にとっての幸福が相対的である限りは。

小山内 じゃあ、結局死んでも？。

間。

| | |
|-----|-----------------------------|
| 宇田川 | じゃあ…。 |
| 小山内 | 帰つて書きます。編集が待つてるので。 |
| 宇田川 | 楽しみにします。 |
| 小山内 | 自信、ないんですけど。 |
| 宇田川 | ご謙遜を。 |
| 小山内 | おいくらですか？ |
| 千葉 | お代は結構です。 |
| 小山内 | え？ |
| 宇田川 | ご期待にそえませんでしたから。 |
| 小山内 | しかし。 |
| 宇田川 | 我々はプロです。中途半端な仕事でお金は頂けません。 |
| 小山内 | そうですか。では、お言葉に甘えて。 |
| 宇田川 | はい。 |
| 千葉 | 失礼します。 |
| 小山内 | ありがとうございます。 |
| 宇田川 | 千葉、小山内のヘルメットを外す。 |
| 小山内 | 宇田川、自身のヘルメットを外す。 |
| 宇田川 | はい。こちらでは私の望む結果を得られそうにありません。 |
| 小山内 | そうですか。申し訳ありません。 |
| 宇田川 | いえ。それに、良いアイデアが浮かんでしまったので。 |
| 小山内 | 宇田川新作ですか？ |
| 宇田川 | はい。 |
| 小山内 | いえ。どうも、ありがとうございます。 |

小山内、去る。

千葉、マスクを外し、ナースキヤツプを取ると、長い髪を下ろす。

千葉 なるほど。
宇田川 ん？

千葉 カマス。
宇田川 ああ。

千葉 これで諦めるわけね。
宇田川 そう。学習性無力感。

千葉 何が見えてたの？
宇田川 自殺道具。

千葉 バーチャルリアリティって知ってる？
宇田川 もしかして、このヘルメット？

千葉 宇田川 そう。

千葉 宇田川 痛みを抑制するつていうのは嘘？
宇田川 あながちハズレでもない。

千葉 宇田川 どういうこと？
宇田川 元々痛みなんてありやしないんだから。

千葉 宇田川 ああ。

千葉 宇田川 あとは、カマスと同じ原理。

千葉 つまり、自殺抑制になつたと。

千葉 うん…。

千葉 何？
宇田川 んー、いや、まだ気が早いかもと思つてね。

千葉 どうして？ 理論的には自殺しなくなるんじょ？
宇田川 さつきのカマスの話、続きがあるつて言つたでしょ。

千葉 ああ。続き、教えてよ。

千葉 どうしたら、カマスは小魚を食べるようになると思う？
宇田川 んー、カマスに食べられることを分からせるとか？

千葉 つまり、見本を見せればいい。

千葉 他のカマスを同じ水槽に入れるんだ。

千葉 そう。そしたら、その新しい方のカマスが小魚を食べる。

千葉 それを見て、元々いたカマスも食べ始める。

千葉 宇田川 そういうこと。

千葉 宇田川 理屈通りにいかないのが人間でしょ。
千葉 確かにね。

千葉 宇田川 一時的な気休めに過ぎないかもしんない。

千葉 宇田川 たまには気休めもなけりや、やつてけないよ。
千葉 まあね。

千葉 宇田川 あ、残りのお金、振り込んだくから。

宇田川 うん。ありがとうございました。

千葉 こちらこそ。書く気にさせるのに、いつも苦労するんだ。

宇田川 大変だねえ。まあ、おかげで良いサンプルデータが取れたよ。

千葉 そつか。

宇田川 でも本当に良かったの？ これで。

千葉 何が？

宇田川 書くの相当嫌がつてたけど。無理矢理書かせて良い物できる？

千葉 「死にたい」「もうダメ」「疲れた」が先生の口癖。

宇田川 ああ。

千葉 何だかんだ言つて書き上げちゃう。だから天才なの。

宇田川 しかも、書く度にベストセラーだもんなあ。

千葉 あんまりにも「死にたい死にたい」ってうるさいからね。

宇田川 それで連絡よこしたんだ。

千葉 そんなことでもなけりや連絡しないでしょ。

宇田川 うわ、今のは傷つくなあ。

千葉 冗談だつて。

宇田川 じやあさ、フレンチでもどう？

千葉 フレンチ？

宇田川 そう。

千葉 んー…あ。そろそろ会社戻らなきや。

宇田川 イタリアンでもいいよ。

千葉 さつき上司から着信あつてさ。小言がうるさいんだよね。

宇田川 もしかして、中華の気分？

千葉 …宇田川くん。

宇田川 何？

千葉 宇田川くん、カマスの話知ってる？

宇田川 …あ、和食がいいの？

ため息をつく千葉。千葉を期待した目で見つめる宇田川。
溶暗。

幕。